

歯科麻酔学特論（脇田 亮）

Advanced Topics in Dental Anesthesiology（Ryo Wakita）

キーワード

- ① 迷走神経
- ② 局所麻酔
- ③ 静脈内鎮静法
- ④ 自律神経系
- ⑤ 全身偶発症

関連する学位授与方針
DP(ディプロマポリシー)

関連する教育実施方針
CP(カリキュラムポリシー)

授業概要

歯科診療における疼痛、不安、恐怖などのストレスは、過剰な迷走神経活動を引き起こし、徐脈や低血圧、さらには意識喪失(迷走神経反射)を招く。これは歯科医師が最も頻繁に遭遇する全身の偶発症であり、その適切な管理と病態把握は安全な歯科医療に不可欠である。本講義では、迷走神経の解剖・生理学的な基礎知識から、精神鎮静法や局所麻酔が自律神経系に与える影響、さらには最新の評価手法まで、論文抄読や議論を通じて専門的知識を修得する。

授業科目の学習目標

迷走神経反射による循環変動や意識消失は、患者の安全に直結する重要な課題である。本講義を通じて、現在までに得られている自律神経活動に関する知見を修得し、歯科臨床における迷走神経反応の予防法や、新たなモニタリング手法を用いた研究テーマを立案できる能力を身につける。

授業計画

- ① 迷走神経の基礎(解剖と生理学) 8コマ 脇田 亮
第10脳神経の走行、受容体、反射弓(Afferent/Efferent)の理解。
- ② 歯科治療における迷走神経反応のメカニズム 10コマ 脇田 亮
疼痛、精神的ストレス、局所麻酔薬(アドレナリン添加)が自律神経系に与える影響の基礎的・臨床的検証。
- ③ 自律神経活動の定量的評価法 6コマ 脇田 亮
心拍変動解析(HRV)、血圧変動、圧受容体反射感受性(BRS)などの測定理論と実際。
- ④ 迷走神経反応研究の進展 6コマ 脇田 亮
近年の臨床研究トレンド、および最新の文献抄読。

教科書および参考書

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

歯科医師としてすでに修得している解剖学、生理学、薬理学(特に局所麻酔薬)の知識を土台とする。各領域の関連論文を批判的に吟味し、実際の臨床現場で起こりうるトラブルに対する理論的背景を深く議論することが求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 迷走神経の解剖学的走行と生理学的機能について説明できる。
- ② 血管迷走神経性失神(VVS)の発生メカニズムと前駆症状を説明できる。
- ③ 歯科治療介入(局所麻酔、外科処置等)が自律神経系に与える影響を解説できる。
- ④ 自律神経活動の評価手法(心拍変動解析等)の原理を理解し、説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問・実技	その他
30%	0%	0%	40%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回30%
- ・成果発表は、各項目について成果を発表する。40%
- ・口頭試問・実技は適宜行い、知識の理解度を判定する。30%

理想的な達成レベルの目安

歯科麻酔学特論の理想的な達成レベルは70%以上とする。